

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 8 号 (5 月 20 日)

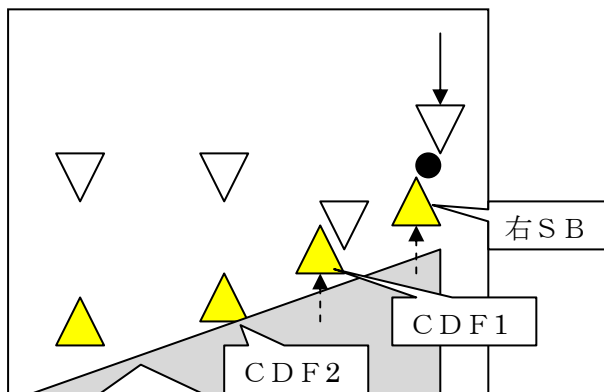
サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A第5節 長井工業戦 大味な勝利

5月18日(土) Y2A第5節長井工業戦が長井市営グラウンドにて行われました。長井工業は現在苦しい星が続いており、そろそろ勝ち点を上げたいという気持ちは強いはず。対する山東も、Y2A前期優勝を目標の一つに掲げておりますが、モンテユースBに敗れるなど、理想とはほど遠い成績・内容。なんとか村山地区リーグ(Mリーグ)を勝ち抜き、県総体の切符はゲットしましたが、県リーグ(Yリーグ)でも良い結果・内容を残し、上昇気流に乗って県総体に臨めるか。今節と次節の結果・内容が重要となってくる。

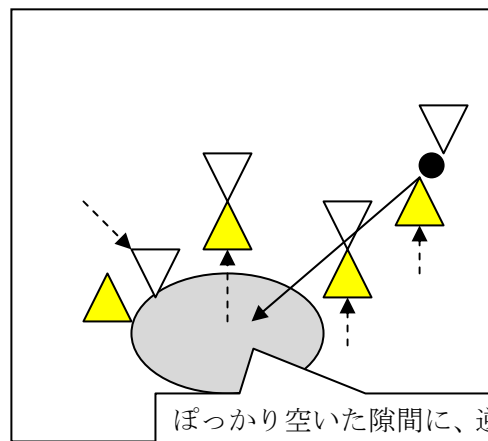
さて、前半、リクのセンターリングが直接ネットを揺らす、通称**シュータリング**が決まり、早々に先制。リク君、その必殺技、県総体にとっておいてほしかった。ともかく、開始5分経たないうちの先制となり、その後の展開を楽しむ・・・はずでした！しかしその後、CDFのギャップ(隙間)をスピーディーに付かれ、失点。すぐさま1対1となる。このシーン、戦術的な理解不足を完全に露呈するシーンでした。

図 1



斜めのライン。つるべの動きとか、シーソーの動きとも、以前は呼んでおりました。

図 2



ぼっかり空いた隙間に、逆サイドの選手が走り込み、自分たちで作ったスペースを相手に使われてしまった。

本来、ボールサイド(ニアサイド)におけるディフェンスは、ボールへのアプローチまたはマンマーク(内側から/マークとボールを同一視できる位置から、マークへのパスをいつでもインターセプトすることのできる準備をして、マークを捕まえておくやり方)をする必要がある。図1では右SBがボールを保持する相手にアプローチしてボールを奪おうとし、CDF1がニアサイドで高い位置を取る相手をマンマークし、「捕まえて」います。しかし、CDF2や左SBは、右SBやCDF1がマッチアップに敗れ、右サイドを破られたとしても、カバーリングできる位置取り、すなわち、ボールや人につくのではなく、ニアサイドよりも自ゴールに近い低い位置取りをする必要がある。それをスペースマークと呼んでおきましょう。そうなんです。ファーサイドにいる選手は、マンマークではなく、スペースマーク

を心がける必要があります。これは、中学生でも知っているサッカーの初歩中の初歩の戦術ではないでしょうか¹。しかしながら、図 2 のように、山東 CDF 2 は相手選手に食いついてしまい、ど真ん中にぽっかり隙間を空けてしまう。そして、適切にも！ 相手選手はそのスペースに入り込み、適切にも！ その選手へのパスを成功させ、GKとの 1 対 1 からゴールを奪いました。左SBがスペースを埋めており（埋めることができ）、かつ、左SBとのコミュニケーションが図られていたのなら、CDF 2 がマンマークに入る（マークに食いつく）ことも「あり」でしょうが、そもそもそのような戦術的理解があったか。

そしてその失点からすぐさま！！ DFのボール回しをかつさらわれ、相次いで失点。1 対 2。何なんでしょう、この不安定さは。一時的に劣勢を強いられる。その後は、山東攻撃陣が本領を発揮し、と言ってよいでしょうか、3 点を追加し、合計スコア 4 対 2 で前半を折り返す。

後半は山東が押し気味に進めるが、ゴールポストに嫌われるなど、精度を欠き、一点を追加するにとどまり、合計スコア 5 対 2 で勝利。攻撃の精度も問題ですが、最終ラインの不安定さは目を覆うばかり。そして、後半の後半は、FWの選手を筆頭に完全にスタミナ切れ。MFはヨシタカを除き、落ち着きが全くなく、簡単なボール回しにもハラハラドキドキさせられる²。課題が多い。課題が多い。課題が多い。上昇気流を感じたいこの時期、こんな調子ではいけません。大反省、猛反省の内容・結果でした。

ともかくも、また今週末Yリーグです。応援よろしくお願いします。

5月25日(土) Yリーグ第6節 VS長井 @日大山形G 16:00~

場所・時間が当初予定より変更となりました。お間違えなきように。

お叱りを受けました

前前号にて褒められた話を書きましたので、今号では最近お叱りを受けた話を二つ。

河川敷Gの前の道路に住居がございますが、ある時チームスタッフが一般住宅前に駐車していると、「高校生に一生懸命教えるのもいいけど、駐車マナーもしっかりしてもらわないと」とお叱りを受けました。当然ですね。以後気をつけます。皆様も河川敷Gにお越しの際は、その通りの公園前などに駐車していただきますと助かります。

もう一つ。

モンテユースB戦後、バスパ内で出場メンバー以外の選手がランニングのトレーニングをしていた時のこと。ダッシュ系のトレーニングをしていたものですから、【一般のランナーの方】にとってお邪魔だったのでしょう。「ぶつかりそうになった」「ここはあなた方の練習場所ではないのではないかと」お叱りを受けました。確かに【一般の方】に危険なトレーニングは慎むべきでしょう。その場でその方に謝罪しました。確かに道を占有するかようなトレーニングは慎むべきでしょう。その意味で、配慮が足りませんでした。この点でもその場でその方に謝罪しました。ただ、他のランナーの迷惑にならないようにバスパ内でランニングするのは許されるのではないのでしょうか。我々も【一般人】だからです。毎日のトレーニング場所に行っているのならいざ知らず、ですが。その方は「山形東高校サッカー部だな、警告したからな」と最後に強い語調で述べて去って行きました。青少年の健全育成を温かい目で見守っていただきたいと思いました。何ごとにもゆとり／遊びが欲しい、と感じる今日この頃です。

¹ 私は遅くとも中学 2 年のときにはこのマンマークとスペースマークの関係を完全に理解しておりました。複数の指導者（山形一中の指導者やトレセンの指導者など）から、つるべの位置（井戸水を汲む滑車において一方のバケツを上げるともう一方が下がることにちなんで名づけられた斜めの位置）を取ることや、シーソーの動き（ニアサイドからファーサイドにかけてシーソーが傾き斜めのラインが形成されること）の重要性を教えてもらっていました。

² 当人のハラハラドキドキは完全に伝わるものです（当然相手選手にも）。良い選手はハラハラドキドキしていても、それを隠してハッターをかませること（落ち着いたふりをする）ことができます。ヨシタカは、ハッターが昨年のゴメレベルになってきました。